



Hayama Marina Yacht Club

# HMYC ヨットレース 本部艇運営要領書

2005年11月26日 一部改訂  
2002年11月24日 一部改訂  
2001年12月02日 一部改訂  
2001年 1月21日 一部改訂  
1998年 1月04日 一部改訂  
1997年 6月01日 一部改訂  
1996年 1月01日 一部改訂  
1994年 3月01日 一部改訂  
1993年 4月01日 一部改訂  
1991年 4月14日 作成

葉山マリーナヨットクラブ レース委員会  
Hayama Marina Yacht Club Race Committee

## 1. 本部艇業務内容

- 1) レース委員長代行
- 2) エントリー受付
- 3) エントリーフィー集金
- 4) マーク打ち助成(必要な場合)
- 5) スタート、フィニッシュ コントロール
- 6) 成績記録および計算の助勢
- 7) 備品チェック、整理および収納

以上のすべての業務を本部艇が行うものとし、原則としてレース委員会のメンバーが手伝うことはない。ただし、マーク打ちは原則として葉山マリーナとレース委員会が行う。

## 2. 各業務の詳細

### 2-1 エントリー受付

- 1) 成績記録用紙はエントリー受付用紙を兼ねます。事前に複数枚のコピーを用意しておいてください。
- 2) レーティング変更艇がないか確認する(艇交換等)。
- 3) 配布資料がある場合は必ず忘れずに手渡す。
- 4) 外来艇があり、レーティング不明時はレース委員会(村越さん)に連絡のこと。
- 5) オープン参加艇の有無を確認のこと。
  - \* エントリー受付時間はAM 8時50分から9時10分まで。
  - \* エントリーフィーは5000円、ただし非会員艇がパーティーに参加する場合は別途2,000円を徴収し、まとめてレース委員長(村越さん)に手渡す事。
  - \* コンピューターへのエントリー艇入力はレース委員会(飯沢さん)が行うので助勢すること。
  - \* 配付資料があるときには、当日レース委員会が持ち込む。

注) ニューイヤーズレガッタ、ピザラカップ、城ヶ島レガッタは、スタート時間が特殊なので、エントリー受付・出港時間等は別途、レース委員会と協議のこと。

### 2-2 備品積み込み

下記備品を本部艇に積み込むため、当日になってあれが無いこれが無いと騒ぐことが無いように、少なくとも1週間前にチェックリスト(添付-3)で確認のこと。  
不明な点はレース委員会(野沢さん)に相談のこと。

- 1) 本部艇用備品ケース(赤色クーラーボックス 大×1  
白色プラスチックケース 中×1)  
ハンドリングコンパス

- フォグホーン及び予備ボンベ
- パワーメガホン（大×1，小×1）
- HMYCフラッグセット（青い帯型の布製バック）
- バインダー+メモ用紙
- 2）フラッグ掲揚具一式（長い棒にフラッグアップ用シートとブロックが付いている。
- 3）アンカーロープ（100M）及びアンカー（15kg）

- \* 上記1）と3）は男子浴室外壁側のHMYCロッカー（白）内に、その他はその左コーナーにある。なお、ロッカーの鍵はレース委員会が保管している。
- \* アンカーとアンカーロープは原則として本部艇のものを使用する。HMYC備品のアンカーロープを使用したときは、水洗後きれいに巻いて保管場所に返却すること。
- \* リコール（X旗）、ゼネラルリコール（第一代表旗）用フラッグは本部艇自身のポートフック等を使用しそれぞれの旗をポールの両端にセットすること。

## 2 -3 出港

- 1) 本部艇に備品と要員を乗せて艇長会議後すみやかに出港すること。
  - \* 本部艇は艇長会議の前に必ず下架しておくこと

## 2 -4 マーク打ち・撤収

マーク打ちおよび撤収は原則として葉山マリーナ大浦氏とレース委員会がさちかぜを使って行うが、場合によっては、助勢要員をお願いすることもある。

## 2 -5 運営手順

- 1）フォアステイにジブハリヤードでHMYCのフラッグを掲げる（図1参照）。
- 2）メインハリヤードでフラッグ掲揚具を掲げる（図3参照）。
- 3）左側スターンにインナーリミットマークブイを取り付ける。シートの長さは3mとする。（図4参照）。
  - \* このマークブイは本部艇にレース艇が衝突することを防ぐ目的で、このマークブイに触れた艇は本部艇接触と同じ扱いにする。
- 4）右側のフラッグアップシートにHMYC予告信号旗（ピンク）を取り付け、いつでも素早く掲げられるようにスタンバイする。
- 5）左側のフラッグアップシートにP旗を取り付けいつでも素早く掲げられるようにスタンバイする。
- 6）中央のフラッグアップシートに第一代表旗を取り付けいつでも素早く掲げられるようにスタンバイする。
- 7）ポートフックの片側にX旗を縛り付け、いつでもデッキ上で手で持ち上げて、表示出来るようスタンバイする（図2参照）。
- 8）エントリーリスト以外の艇でレースに出そうな気配の艇がないか確認する。
- 9）上記1）～7）の作業を行っている間に、レース委員会と連絡をとり、マークの位置を確認する。
  - \* スタートラインはできる限り長めに（事故が少ない）、多少下有利になるよう心が

- ける。
- 10) 不明な点、困ったことが起きた場合、決断がつかないときにはレース委員長、又はレース副委員長に連絡して指示を仰ぐ。連絡がどうしてもつかない場合は本部艇の判断でコース短縮又はレース中止等の決定をする。
  - 11) 本部艇上で次の担当者を決めておく。
    - ・レース旗、P旗掲揚および降下担当
    - ・リコール、ゼネリコ旗掲揚担当
    - ・リコール、ゼネリコ確認担当
    - ・フォグホーン担当、時計担当
    - ・リコール艇名、フィニッシュ等記録担当
  - 12) 本部艇は出港後速やかにL旗を掲揚してレース海面に向かう。
  - 13) レース委員の指示によりスタートラインを設定する。  
この時点で風速が16ノットを越えていた場合、長音一声とともにY旗を掲揚しライフジャケットの着用を義務づける。
  - 14) スタート6分前に長音一声とともにL旗を降下する。
  - 15) スタート5分前に長音一声とともに予告信号旗(ピンク旗)を掲揚する。
  - 16) スタート4分前に長音一声とともに準備信号旗(P旗)を掲揚する。
  - 17) スタート1分前に長音一声とともに準備信号旗(P旗)を降下する。
  - 18) スタート時刻に長音一声とともに予告信号旗(ピンク旗)を降下する。
  - 19) リコール艇を確認した場合
    - (1) インデュビアルリコール(艇を特定できた場合)即、長音一声とともにX旗を掲揚する。
    - (2) 全てのリコール艇がスタートライン内に完全に戻った事を確認すると同時にX旗を降下する。
    - (3) 1艇でもリコールを解消しない場合はX旗を揚げ続ける。その後スタート4分後にX旗は降下する。(音響信号は不要)
  - 20) ゼネラルリコール  
スタート時に全てのリコール艇を特定出来なかった場合は長音2声とともに第一代表旗を掲揚する。
  - 21) スタート時刻4分後に長音一声とともに第一代表旗を降下する。
  - 22) その1分後(リスタートの5分前)に長音一声とともに予告信号旗(ピンク旗)を掲揚する。
  - 23) リスタートの4分前に長音一声とともに準備信号旗(今度はI旗)を掲揚する。
  - 24) リスタートの1分前に長音一声とともに準備信号旗(I旗)を降下する。
  - 25) 1分間ルール  
リスタート1分前の(I旗)降下後、スタートラインの又はスタートラインの延長線上のコースサイド側にいたか、又はスタート時返にスタートラインのコースサイド側に出た艇を特定する(図参照)。
  - 26) スタート時刻に長音一声とともに予告信号旗(ピンク旗)を降下する。
  - 27) 特定された艇が本部艇又はリミットマークいずれかの外側を回ってスタートライン内に復帰したことを確認する。  
(ラウンドアンエンドルール=スタート前でもOK)

28) リスタート

リスタート時迄にラウンドアンエンドルールを解消しなかった艇を特定した場合はX旗を掲揚し、長音一声を発する。

29) ・全てのリコール艇がラウンドアンエンドルールを解消した場合X旗を降下する。  
(音響信号なし)

- ・ 1艇でも解消しなかった場合はX旗を揚げ続ける。その後スタート4分後にリコール解消の有無に関わらずX旗を降下する。

30) スタート10分後にスタートラインはクローズし、スタートラインを横切っていない艇はDNSとする。

31) コース短縮の場合、コース短縮を決定した時点でS旗を掲げて長音二声を発し、フィニッシュの手順をとる。

32) スタート時刻は10時30分とする。(別個にスタート時刻を定めたレースを除く)

33) スタート延期の場合は長音2回と同時にAP旗を掲げる。次の予告信号はAP旗降下(長音一声)の1分後に発する。

34) スタートしてからフィニッシュ迄の本部艇の行動は自由であるが、常にコース短縮の可能性を考えていつでも対応出来る様にしておく。またレーススタート後、風速が40ノットを越えた場合レースは中止にする。その場合上記10)の方法で相談し、決定したなら直ちにNA旗を揚げ、長音三声を発し、各艇に連絡して速やかに帰港する。

35) フィニッシュ時はフォグホーンで短音一声を発して各艇のフィニッシュ時刻を記録するが、リコールを解消していない艇、又はラウンドアンエンドルール違反艇はホーンをならさない。ただし時刻は別枠に記録しておく。また特に風の強い日は記録紙を風で飛ばされないように細心の注意をくばる事。

36) タイムリミット時には長音二声を発する。続けて2レース目を予定している場合は長音一声とともにL旗を掲揚する。

37) レースの記録を速やかにレース委員会(飯沢さん)に手渡し、コンピューターで計算を依頼する。

38) レース結果はパーティーで発表するまでは他言しないこと。

39) 備品の破損、紛失がないかチェックリスト(添付-3)で確認後元の場所に戻し、レース委員会(野沢さん)に連絡する事。

\* レース終了後、抗議が出た時には、直ちにレース委員会のメンバーを召集する。  
又、フィニッシュ時及びレース中、抗議の旗が揚がっていないか常に注意のこと。

## HMYCレース 本部艇備品チェックリスト

1. 本部艇用備品ケース内容物 (赤色クーラーボックス)	使用前	使用后
1) 風向計		
2) フォグホーン		
3) メモ用紙		
4) バインダー		
5) フェルトペン		
6) パワーメガホン (電池確認のこと)		
7) フラッグセット (白色布製バッグ) 内容は別項		
2. インナーリミットマークプイ、アンカー、ロープ		
3. フラッグ掲揚ポール		
4. 本部艇用アンカー (15kg)		
5. アンカーロープ (100m) 水洗後所定の場所に収納の事		

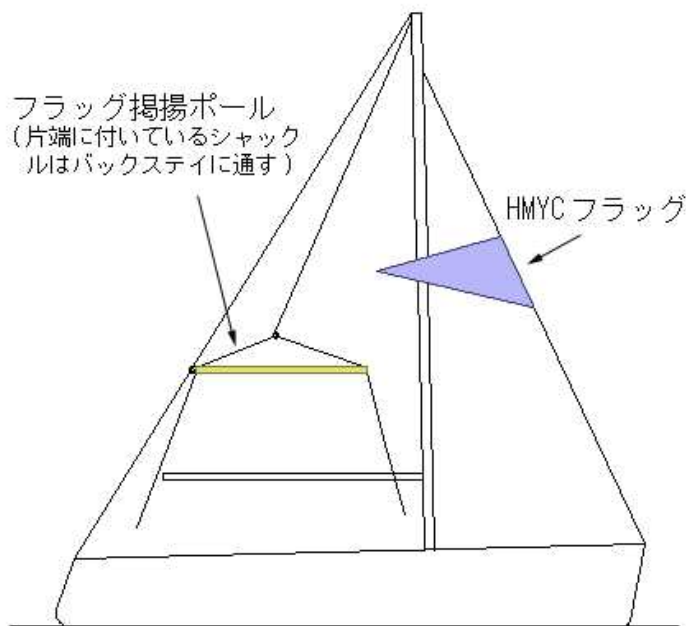
### フラッグセット内容

内容	使用前数	使用后
HMYCフラッグ (青、三角)		
レース旗 (予告信号、ピンク、三角)		
P 旗 (準備信号)		
X 旗 (個別リコール)		
第一代表旗		
A P 旗 (回答旗)		
S 旗 (コース短縮)		
I 旗 (ゼネリコ後の準備信号)		
W 旗 (ウェザーマークあり)		
L 旗 (HMYCでは6分前降下も意味する)		
C 旗 (コース変更)		
N 旗 (ノーレース)		
赤旗、青旗		
HMYC横幕 (緑、2枚、両舷に展開)		

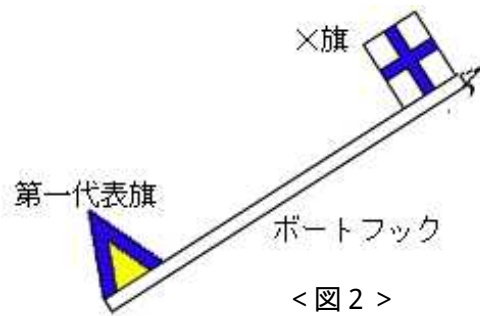
### 補充が必要な備品

1)
2)
3)

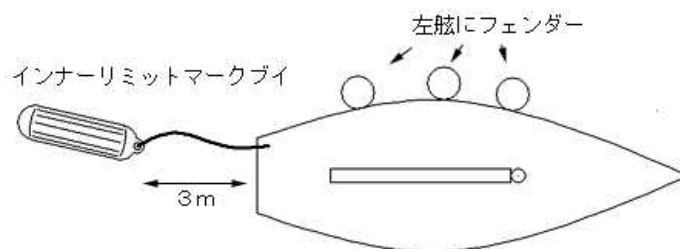
使用日;    年    月    日
本部艇名;
責任者;



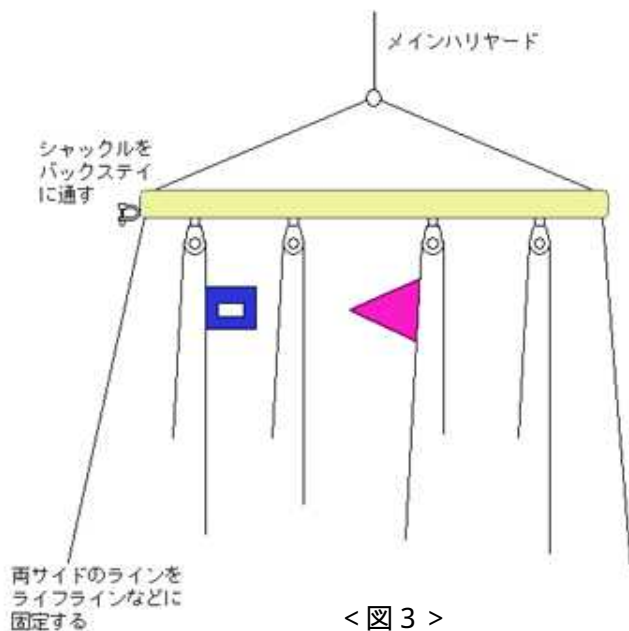
< 図 1 >



< 図 2 >



< 図 4 >



< 図 3 >

## HMYC レース用フラッグ

<p><b>HMYC旗</b></p>  <p>本部艇 出港前にセット</p>	<p><b>I 旗</b></p>  <p>本部艇に集まれ スタート6分前にDOWN ホーン1声</p>	<p><b>予告信号</b> スタート5分前にUP ホーン1声</p>  <p>スタート時にDOWN ホーン1声</p>
<p><b>P旗</b> スタート4分前UP ホーン1声</p>  <p>スタート1分前DOWN ホーン1声</p>	<p><b>I 旗</b> ゼネリコ後のスタート4分前UP ホーン1声</p>  <p>スタート1分前DOWN ホーン1声</p>	<p><b>X 旗</b> リコール艇ありの時UP ホーン1声</p>  <p>解消後又は4分後DOWN ホーン不要</p>
<p><b>第一代表旗</b> ゼネラルリコール時UP ホーン2声</p>  <p>4分後（再スタート6分前） Down</p>	<p><b>S 旗</b> コース短縮指示 ホーン2声</p> 	<p><b>A P 旗（回答旗）</b> スタート延期 ホーン1声</p>  <p>スタート6分前にDOWN ホーン1声</p>
<p><b>Y 旗</b> ライフジャケット着用指示 ホーン1声</p> 	<p><b>W 旗</b> ウェザーマークを使用する ホーン1声</p> 	<p><b>C 旗</b> コース変更 ホーン2声</p> 
<p><b>N 旗</b> スタートしていないレースは中止する。降下1分後に予告信号を掲揚する。</p>  <p>ホーン断続</p>	<p><b>NA 旗</b> すべてのレースは中止する。本日は終了。ホーン断続</p> 	